



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年11月11日

上場会社名 福留ハム株式会社

上場取引所 東

コード番号 2291 URL <http://www.fukutome.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 中島 修治

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理支援部長

(氏名) 深町 誠

TEL 082-278-6161

四半期報告書提出予定日 2019年11月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	12,739	△0.7	△264	—	△241	—	△838	—
2019年3月期第2四半期	12,833	△2.1	△54	—	△33	—	△43	—

(注)包括利益 2020年3月期第2四半期 △1,000百万円 (—%) 2019年3月期第2四半期 32百万円 (△90.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	△251.36	—
2019年3月期第2四半期	△13.07	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	16,667	4,861	29.2
2019年3月期	17,831	5,912	33.2

(参考)自己資本 2020年3月期第2四半期 4,860百万円 2019年3月期 5,911百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,600	△5.9	△420	—	△370	—	△850	—	△254.71

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2Q	3,400,000 株	2019年3月期	3,400,000 株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	62,852 株	2019年3月期	62,812 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2Q	3,337,165 株	2019年3月期2Q	3,337,266 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の持続や雇用・所得環境の改善がみられるなど景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。その一方で、個人消費は一部持ち直したものの、10月からの消費税増税の影響からくる景気の下振れ懸念や将来不安からくる節約志向、さらには不安定な海外情勢や米中貿易摩擦の長期化など、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当業界におきましては、消費者の低価格・節約志向が根強く残るなか、一部供給原料の値上がりに伴う製造コスト等の上昇や人手不足等による労働コスト・物流費の上昇、さらには国内牛肉相場の高値継続やアフリカ豚コレラの影響もあり、依然として厳しい環境で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、「お客様第一にあふれる味覚をお届けします」をモットーに「安心・安全・美味しさ」を追求し、創業100周年を迎え経営理念のさらなる浸透を図るとともに、コンプライアンスを重視した社員教育を実施いたしました。また、製造コスト等の上昇が当社の経営を強く圧迫する要因となっている状況のなか、作業効率の改善や仕入の見直しを重視し、コスト削減努力を継続してまいりました。そして、5月には、高生産性で品質管理を徹底させた新たな拠点として、岡山県工場(岡山県浅口市)が本格的に稼働いたしました。

販売に関しましては、「花ソーセージ」「JAS特級あらびきポークウインナー」のCM放映に加え、4月より毎月100名様に商品詰め合わせセットが当たる「おかげ様で100周年キャンペーン」を実施し、販売強化を図ってまいりました。また、商標登録ブランド「ロマンティック街道」シリーズに加え、オリジナル商品「花ソーセージ」や昨年発売を開始いたしました次の100年に向けたブランド「昂ブランド」などの重点商品の販売・販路拡大に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、消費者の節約・低価格志向や競合他社との価格競争の激化などにより、127億39百万円(前年同四半期比0.7%減)となりました。利益につきましては、国産豚肉相場の変動や製造コスト、物流コスト等の上昇などにより、営業損失は2億64百万円(前年同四半期は営業損失54百万円)、経常損失は2億41百万円(前年同四半期は経常損失33百万円)となりました。四半期純損益につきましては、繰延税金資産の取り崩しにより、法人税等調整額を5億57百万円計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は8億38百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失43百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

加工食品事業

加工食品事業につきましては、消費者の節約志向が続くなか、「JAS特級あらびきポークウインナー」や「肉厚ハンバーグ」、「ローストビーフ」、「ローストポーク」が堅調に推移しました。また、新商品としてポーク&チキンのボロニアソーセージをステーキタイプにスライスした「ソーセージステーキ」を発売しましたが、全体の落ち込みをカバーするまでには至らず、企業間競争の激化等により売上高は減少いたしました。利益面におきましては、原材料価格の上昇や動力費等の製造コストの上昇により前年同四半期を下回りました。

その結果、売上高は55億76百万円(前年同四半期比2.5%減)、セグメント利益(営業利益)は1億17百万円(前年同四半期比51.9%減)となりました。

食肉事業

食肉事業につきましては、国産牛肉は、市場ニーズに合った販売が堅調に推移し、売上高、販売量とも増加いたしました。国産豚肉は、販売量が増加したものの競争激化や国産豚肉相場の変動により売上高は減少いたしました。輸入牛肉は、米国産、豪州産、ニュージーランド産牛肉が堅調に推移し、売上高、販売量とも増加いたしました。輸入豚肉は、競争激化により売上高、販売量とも減少いたしました。

その結果、売上高は71億62百万円(前年同四半期比0.7%増)、セグメント損失(営業損失)は1億4百万円(前年同四半期はセグメント損失(営業損失)27百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産等の状況

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ11億63百万円減少の166億67百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ6億51百万円減少の65億33百万円となりました。主な要因は、現金及び預金3億1百万円、受取手形及び売掛金4億39百万円の減少によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ5億11百万円減少の101億34百万円となりました。主な要因は、機械装置及び運搬具1億49百万円の増加と投資有価証券2億30百万円、繰延税金資産3億1百万円の減少によるものであります。

(負債の部)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ1億12百万円減少の118億6百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ4億32百万円減少の77億70百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金65百万円、短期借入金56百万円、その他流動負債3億22百万円の減少によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ3億20百万円増加の40億35百万円となりました。主な要因は、長期借入金1億5百万円、繰延税金負債2億20百万円の増加によるものであります。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ10億50百万円減少の48億61百万円となりました。主な要因は、利益剰余金8億88百万円、その他有価証券評価差額金1億46百万円の減少によるものであります。

②連結キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ3億1百万円減少の24億37百万円（前連結会計年度比11.0%減）となりました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、2億93百万円（前第2四半期連結累計期間は89百万円の資金獲得）となりました。主な要因は、売上債権の減少額4億39百万円及びたな卸資産の増加額1億38百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、5億45百万円（前第2四半期連結累計期間は10億22百万円の資金使用）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出5億63百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、49百万円（前第2四半期連結累計期間は98百万円の資金獲得）となりました。主な要因は、長期借入れによる収入3億円と長期借入の返済による支出2億30百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の連結業績予想については、2019年5月13日に公表したもののから修正いたしました。詳細は本日別途公表いたしました「繰延税金資産の取り崩し並びに2020年3月期第2四半期連結累計期間業績予想値と実績値の差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,858	2,557
受取手形及び売掛金	2,952	2,513
商品及び製品	986	1,086
仕掛品	49	52
原材料及び貯蔵品	250	284
その他	101	40
貸倒引当金	△13	△2
流動資産合計	7,184	6,533
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,116	3,052
機械装置及び運搬具（純額）	845	994
土地	3,625	3,625
リース資産（純額）	191	164
その他	121	84
有形固定資産合計	7,901	7,921
無形固定資産	29	28
投資その他の資産		
投資有価証券	2,197	1,967
繰延税金資産	301	-
その他	367	371
貸倒引当金	△150	△154
投資その他の資産合計	2,715	2,184
固定資産合計	10,646	10,134
資産合計	17,831	16,667

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,307	2,242
短期借入金	4,677	4,620
未払法人税等	27	33
賞与引当金	171	177
その他	1,019	696
流動負債合計	8,203	7,770
固定負債		
長期借入金	1,425	1,531
役員退職慰労引当金	333	344
退職給付に係る負債	1,809	1,808
繰延税金負債	-	220
その他	145	130
固定負債合計	3,715	4,035
負債合計	11,918	11,806
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,691	2,691
資本剰余金	1,503	1,503
利益剰余金	1,155	266
自己株式	△80	△80
株主資本合計	5,270	4,381
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	707	561
退職給付に係る調整累計額	△65	△81
その他の包括利益累計額合計	641	479
非支配株主持分	0	0
純資産合計	5,912	4,861
負債純資産合計	17,831	16,667

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	12,833	12,739
売上原価	10,538	10,645
売上総利益	2,295	2,094
販売費及び一般管理費	2,350	2,358
営業損失(△)	△54	△264
営業外収益		
受取利息及び配当金	22	23
不動産賃貸料	29	29
その他	17	20
営業外収益合計	70	73
営業外費用		
支払利息	32	34
不動産賃貸費用	13	12
その他	2	2
営業外費用合計	48	50
経常損失(△)	△33	△241
特別損失		
投資有価証券評価損	-	27
特別損失合計	-	27
税金等調整前四半期純損失(△)	△33	△268
法人税、住民税及び事業税	9	12
法人税等調整額	0	557
法人税等合計	10	570
四半期純損失(△)	△43	△838
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△43	△838

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純損失(△)	△43	△838
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	66	△146
退職給付に係る調整額	9	△15
その他の包括利益合計	76	△161
四半期包括利益	32	△1,000
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	32	△1,000
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△33	△268
減価償却費	236	279
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	10	10
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	△7
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△79	△13
受取利息及び受取配当金	△22	△23
支払利息	32	34
投資有価証券評価損益(△は益)	-	27
売上債権の増減額(△は増加)	△124	439
たな卸資産の増減額(△は増加)	△174	△138
仕入債務の増減額(△は減少)	190	△50
その他	106	27
小計	141	316
利息及び配当金の受取額	22	23
利息の支払額	△32	△39
法人税等の支払額	△42	△8
営業活動によるキャッシュ・フロー	89	293
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,017	△563
投資有価証券の取得による支出	△6	△7
無形固定資産の取得による支出	△0	△7
その他	2	33
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,022	△545
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△60	△20
長期借入れによる収入	400	300
長期借入金の返済による支出	△140	△230
リース債務の返済による支出	△50	△48
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△50	△50
財務活動によるキャッシュ・フロー	98	△49
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△833	△301
現金及び現金同等物の期首残高	3,116	2,738
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,282	2,437

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	5,722	7,111	12,833
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	5,722	7,111	12,833
セグメント利益又は損失(△)	244	△27	217

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	217
全社費用(注)	△272
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△54

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	5,576	7,162	12,739
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	5,576	7,162	12,739
セグメント利益又は損失(△)	117	△104	13

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	13
全社費用(注)	△278
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△264

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。